

協議会への申込について

以下のとおり、中電技術コンサルタント株式会社様から、第9期途中からの自然再生協議会委員への応募がありました。

榎野川河口域・干潟自然再生協議会設置要綱第6条の規定により、委員となるかどうかについて、御審議をお願いします。

「榎野川河口域・干潟自然再生協議会」委員応募用紙（個人・団体共通）

2022年3月3日

次のとおり、榎野川河口域・干潟自然再生協議会の委員に応募します。

1	□個人	氏名		男・女	生年月日	
		住所	〒 -		勤務先	
	□団体	団体名 <small>(代表者氏名含む)</small>	中電技術コンサルタント株式会社 山口支社 支社長 田中達也		業種	建設コンサルタント
		住所	〒754-0002 山口市小郡明治一丁目16-3		担当者氏名	月坂 明広
2	連絡先	TEL	082-256-3351		FAX	082-256-1968
		メールアドレス	tukisaka@cecnet.co.jp			
3	応募の 動機	近年、カーボンニュートラル達成に向けた二酸化炭素の貴重な吸収源として、「ブルーカーボン（海の藻場・干潟等）」が注目されている。 榎野川河口干潟及び河口部から山口湾、秋穂湾に広がる藻場は、地域の貴重な自然資源・宝であり、CO ₂ 吸収源としても高いポテンシャルを有している。また、古くから漁協やNPO、大学などの関係者による維持保全活動が活発であるが、近年は人材不足、資金不足などによる活動の継続が危がまれている。 このような中、国交省を中心にスキーム作りが推進されているJブルークレジットのしそみを活用することで、維持保全活動の持続的発展や地域のブランド形成などが期待できる。 弊社は、ブルーカーボン等に関するノウハウを有しており、地域に根差したコンサルタントとして、協会の会員様との良好な関係を形成しながら、一緒に榎野川河口干潟等の保全活動や地域づくりを盛り上げていきたい。				
	活動歴 及び 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・BERG（ジャパンブルーエコミー推進研究会）に所属し、BCに関する研究・検討に従事。 ・BCのポテンシャルの高い自治体に向けての提案活動を展開中。 ・中国地域の自治体のブルーカーボン業務を受注（R3年度2件） ・経産省・環境省のJクレジットやHiビーズによる水質浄化、環境モニタリングなど、関連業務の受注多数。 				
	参加希望の ワーキング グループ	<input type="checkbox"/> をしてください。（複数選択可。下表を参照） <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 干潟・水産資源再生WG <input type="checkbox"/> カプトガニWG <input type="checkbox"/> 環境学習WG <input type="checkbox"/> 持続的な里海づくりWG 				

※ 団体の会則等があれば、添付してください。

※ 提出いただいた情報等は、自然再生事業の目的の範囲内で適切に取り扱います。

なお、氏名及び団体名は、協議会ホームページ等で公開します。

<応募・問い合わせ先>

榎野川河口域・干潟自然再生協議会事務局（山口県環境生活部自然保護課内）

〒753-8501 山口市滝町1-1（県庁2階）

TEL：083-933-3060、FAX：083-933-3069、Mail：a15600@pref.yamaguchi.lg.jp

《各ワーキンググループの活動例》

ワーキンググループ名	主な取組内容
干潟・水産資源再生WG	干潟環境やアサリ等の再生活動（耕耘作業等）や調査研究等に係る内容等の検討・実施
カプトガニWG	カプトガニ産卵・生息状況等の整理、調査等の実施
環境学習WG	地域住民等への環境学習活動の実施、学習資料等の作成
持続的な里海づくりWG	募金やファンクラブ会員獲得に向けた取組、各取組に係るプラットフォームの拡充、普及啓発資料の作成（広報）

～榎野川河口域・干潟自然再生協議会設置要綱（抜粋）～

（途中参加委員）

第6条 協議会の委員から推薦があり、第10条に規定する協議会の会議の出席委員の合意が得られた場合に、委員となることができる。

2 途中参加委員となろうとする者が、第13条に規定する運営事務局に、途中参加委員となる意思表示を行い、第10条に規定する協議会の会議の出席委員の合意が得られた場合に、委員となることができる。

3 途中参加委員の任期は、第5条に規定する委員の任期の残任期間とする。